

氏名

岡 田 剛

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1100 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和 55 年 3 月 31 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 1 項該当)

学 位 論 文 題 目 摘脾の腫瘍増殖と細胞性免疫に及ぼす影響に関する実験的研究

論 文 審 査 委 員 教授 寺本 滋 教授 妹尾左知丸 教授 大藤 真

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

腫瘍移植前に摘脾しておくと、宿主の抗腫瘍増殖性が増して腫瘍の生着、増殖が抑えられるという報告は比較的多くみられた。しかし、腫瘍が生着した後から摘脾を行い、摘脾の腫瘍増殖や宿主の細胞性免疫に及ぼす効果をみた報告は皆無に近い。本論文ではこの点を明らかとすべく、 DDS 系マウスの背部皮下へ Ehrlich 腹水癌細胞 5×10^6 個／マウス、 5×10^5 個／マウスを移植し、移植前後で摘脾を行い、腫瘍の大きさと局所腋窩リンパ節細胞のマクロファージ遊走阻止活性 (MIF) の経日の推移を検討し次の結果を得た。Ehrlich 癌細胞 5×10^6 個移植群では、移植 7 日前に摘脾しておくと一過性の腫瘍増殖後に全例に腫瘍が完全退縮する。移植 5 日後に摘脾すると、15% の症例で偽摘脾対照群と同様腫瘍死するが、85% は腫瘍増大後完全退縮する。10 日後摘脾群ではむしろ早期に腫瘍死する。Ehrlich 癌 5×10^5 個移植群では、移植 10 日後に摘脾しても約半数に増殖の遅延が、15% に腫瘍の退縮がある。MIF は腫瘍増殖と密接な関係があって、腫瘍が増殖の一途をとる例では移植 2 週前後で消失する。腫瘍の完全退縮する例では、腫瘍の増殖中も MIF は弱陽性に保たれ、退殻後も 2 週間は陽性である。摘脾は早期癌に有意義と考えられる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は腫瘍増殖と細胞性免疫に及ぼす摘脾の影響についてマウスを用いて実験的に研究したものであるが、移植腫瘍の生着、増殖と摘脾の意義に関して重大な知見を得たものであり価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。